

魅力ある図書館づくり

～本に親しみ、主体的に図書館を利用する児童の育成を通して～

岩倉市立曾野小学校

1 はじめに

本校には、低学年図書館と高学年図書館の2つの図書館がある。雨の日には、本の貸し借りで行列ができるほどの人気であるが、晴れの日には外で遊ぶ児童が多くなり、図書館に通う児童が少なくなる。また、図書館の利用は学年が上がるにつれて減っている。令和3年度の1～4年生のそれぞれの学年の総貸出冊数は2000冊を超え、4000冊近く借りている学年もあるのに対して、5、6年生の総貸出冊数は2000冊まで届いていない。本が好きで図書館へ通う児童が固定化されてしまうこと、学年が上がるにつれて図書館の利用が減ることが課題である。

そこで保護者による読み聞かせボランティアと図書委員会とが連携・協力することで本に親しむ機会や、図書館を利用する児童が増えるのではないかと考え、どの学年も利用したいと思える魅力ある図書館づくりを目指すこととした。

2 研究のねらい

本に親しみ、楽しんで読書をしたり、主体的に図書館を利用したりする児童を育てる。

3 研究の実際

(1) 本に触れる機会を増やす取組

① 読み聞かせの実施

本校では、児童がさまざまなジャンルの本に触れる機会を作るために、毎週水曜日の朝の時間と木曜日の長放課に図書委員や読み聞かせボランティア「ラビット」による本の読み聞かせを実施している（写真1）。

図書委員の読み聞かせでは、低学年が興味をもってくれる、楽しいと思ってくれるといった相手意識をもって低学年のために本を選び、読み聞かせの練習をした。低学年児童は図書委員が選んだ本の内容や、読み方に興味関心をもって聞く姿が見られた。

また、読み聞かせボランティア「ラビット」は、毎週2学年毎に読み聞かせを実施しており、その季節やイベント、学年に応じて、さまざまな本を紹介することで、児童が多様な本と出会う機会となっている。



【写真1 ラビットの方による読み聞かせの様子】

② 読書週間

通常は1日に1度の本の貸出を10月の2週間は2度貸出を可能とし、「読書の木」、「読書郵便」の活動を行っている。

ア 読書の木

期間中、各学級に大きな木が書かれたさまざまな模造紙を用意し、葉やりんご、星を型取った紙に目標を達成すると名前を書いて貼っていくという「読書の木」という活動を行った（写真2）。

1、2年生は3冊、3、4年生は80ページ、5、6年生は100ページ読むという目標が異なり、葉からりんご、星の順に目標が高くなっていく。目標の達成を級の読書の木に貼っていくことで、児童が自分の読書の状況が視覚的にわかることに加えて、周囲の目標達成に影響を受けて、さらに積極的に読書をする事ができた。

葉の目標を達成した児童には読み聞かせボランティア「ラビット」の手作りしおりを贈呈した。そのために普段は図書館に通わない児童も図書館に通い、読書をしたり、目標を達成してもさらに本を読み続けたりするなど、意欲的に本に親しむ姿が見られた。



【写真2 読書の木】

イ 読書郵便

ペア学年や友達におすすめの本を紹介する「読書郵便」という活動も行った。各図書館にポストを設置し、おすすめの本を読書郵便に書き、投函する姿が見られた（写真3）。

高学年は低学年に相手意識をもって本を選び、丁寧に紹介していた。また低学年は高学年の子が自分のために選んでくれた本に親しむことができ、普段選ばない新たな本と出会う機会となった。



【写真3】 読書郵便を投函する児童

(2) 読書環境の整備

① 図書館の整備

高学年図書館は調べ学習を中心に利用できる「学びの森」と物語作品を中心に揃えている「読書の森」の2つの図書館に分かれている。2つに分けることで児童は目的に応じて図書館を使い分けることができている。

② 配架の工夫

読書指導員の方によって季節、行事ごとに児童が手に取りたいくなるような配架の工夫をしている。図書館の前方や、図書館前の廊下に図書委員会のおすすめの本、季節に関する本などを紹介するコーナーを設置している（写真4）。おすすめの本は図書委員が紹介カードを書き、各図書館の黒板に掲示している（写真5）。図書委員のおすすめの本コーナーは、どのような本を選んでよいかわからない児童にとって読書の手がかりとなる。また、読書が好きで図書館によく通っている児童にとっても、普段読まない本を手に取り、読書の幅を広げるきっかけとなる。図書委員の友達が紹介していたり、高学年のお兄さんやお姉さんが紹介していたりすることで、普段読んだことがない本でも読んでみようという意欲をもつことにつながっている。

学校行事、各学年の教科書に掲載されているお話に関する本のコーナーも設置している。修学旅行前には読書指導員の協力を得て、図書館前の廊下に修学旅行で訪れる場所や、歴史に関する本、クイズを掲示した。6年生の児童は、本を借りに行く時でなくても図書館前に立ち止まり、掲示物を見たり、本を手に取り読んだりしていた（写真6）。教科書に掲載されているお話に関する本は、授業の中でも触れたり、児童同士の会話にも出てきたりするため、興味関心が高く、その本に進んで親しむ姿も見られた。

児童が1日の多くの時間を過ごす教室の学級文庫を入替ることで、教室の中でも本に親しむ機会が増えるのではないかと考え、図書委員会の活動で学級文庫の入替を行っている。入替により、今まで読んだことがない新たな本と出会い、休み時間も学級文庫を手に取る機会となった。



【写真4 おすすめの本紹介掲示】



【写真5 おすすめの本紹介作成の様子】



【写真6 図書館前の掲示を見る様子】

③ 季節ごとの掲示

本校にある3つの図書館は、読み聞かせボランティアの協力や図書委員会の活動によって季節ごとの掲示を実施している。図書委員会でもクリスマスが近づくとクリスマスリース作りを行い、図書館をクリスマス仕様に飾った。読み聞かせボランティアの協力もあり、季節によって図書館の雰囲気が変わり、7月であれば七夕の短冊に願いを書き、笹の葉につけることができたり、1月には絵馬に目標を書いて飾ることができたりするなど全校児童が掲示に参加している（写真7）。



【写真7 短冊が結びつけられた笹】

4 成果と課題

本に触れる機会を増やす取組の成果として、図書委員会や読み聞かせボランティア、指導員の協力もあり、読書週間には図書館の利用が増えた。読書週間前の令和4年度9月の総貸出冊数は925冊であったのに対し、読書週間後の10月の総貸出冊数は、2109冊と伸びている。読書週間に本の貸出数を2冊に増やしたり、「読書の木」に目標達成の葉やりんご、星を貼って自分や学級の読書の状況を可視化したり、読書郵便によっておすすめの本を紹介し合ったりすることで、新たな本と出会う機会が増え、楽しんで読書をする児童が増えた。

読書環境を整備する取組では、児童の身の回りの読書環境を整備することにより、意欲的に読書に取り組む児童が増えた。また図書委員のおすすめの本紹介や、季節、学校行事に関する本を図書館に来た児童の目につきやすい場所に配架することにより、その本を手に取り、楽しそうに読んだり、借りたりする姿が見られるようになった。

しかし、読書週間においては貸出冊数や図書館の利用は増えているが、読書週間以外では高学年の図書館利用が少ないことや、読書数が多い児童がいる一方、あまり本を借りない児童もいることなど課題は多く残っている。児童が興味関心をもって主体的に図書館を利用できるような取組を今後も考えていく必要がある。また、授業における図書館活用としては、学年によってまだまだ差がある。差が出ないように、図書館担当がもう少し職員全体に働きかける必要がある。

5 おわりに

図書館運営に関わり、本に親しみ、楽しんで読書をしたり、主体的に図書館を利用したりする児童を育てるためには、図書委員会や担任だけでなく、読書指導員や読み聞かせ図書ボランティアとの連携・協力が非常に大切だと感じた。今後も、児童の読書の幅を広げるような本と出会う機会を増やすこと、読書環境を整えることなど、図書委員会、読書指導員、読み聞かせボランティアみんなでさまざまなアイデアを出し合い、魅力ある学校図書館づくりを目指していきたい。